

資産運用レポート：資本家の株式投資

1 はじめに

トマ・ピケティ教授の著作『21世紀の資本』に興味深い記述があります。

トップ百分位では、金融、事業資産が不動産を凌駕する。特に最大級の財産だと、株式やパートナーシップによる持分がほとんどすべてとなる。

資産1000万ユーロ以上では、不動産は10パーセント以下で財産の大半は株だ。住宅は中産階級と小金持ちに人気の投資だが、本当の富は金融、事業資産が主体なのだ。

庶民レベルでは、株式投資で成功できるのは、10人に1人もいないはず。ところが資産1000万ユーロ（13億円）以上の資本家は、その大半を株で保有し、富を蓄積しています。

ただ彼らが具体的にどのような投資を行い、いくら儲けているのかというデータが公開されることはまずありません。

そんな大事な企業秘密を、資本家がべらべらとししゃべるはずはないからです。

稀有な例が、近世から近代にかけて泉南地域最大の米穀・肥料商として活躍した廣海家（ひろみけ）です。

同家には、商業活動と投資活動の双方の実態を詳しく知ることのできる貴重な古文書が残されており、貝塚市の文化財に指定されました。

学者による研究も進められており、投資活動の実態も解明されつつあります。

今回の資産運用レポートでは、廣海家を事例に、資本家の株式投資について探っていきます。

★廣海家古文書

